

漢字学習では、“義”が最も大切

今までの漢字教育と言えば、読むことと書くこと、それも一点一画まで極めて厳格に、しかも一定の筆順で書くことが重視されていました。

しかし、私の漢字教育では、読みや書きよりももっと重視するものがあるのです。昔から、“形・音・義”という言葉がありますが、形は書きに、音は読みに関するものです。勿論、形も音も大切ですが、その形と音とに生命を与えているのが“義”です。

たとえば、“熱い”という漢字があります。しかし、この字を“あつい”と読めて、それを筆順正しく、形が正しく書けても、この字の持つ正しい“義”を理解していなくては、何にもなりません。

極端に言うなら、正しく読めなくても、また書けなくてもよい。その意味を正しく理解できるならそれで結構、というのが私の最も強調したいところです。

だから、この漢字を幼児に教えようとするなら、まず、熱湯を瓶に入れ、この瓶に“熱い”という漢字カードを貼り付け、これを幼児に与えます。幼児はこの瓶を握ってみて、「あつい！」と叫んで手を誰すでしょう。そ

の体験が、“熱い”という漢字の“義”です。

この“義”を中心に、それを“あつい”という言葉(音)と“熱い”という字形(形)とに結び付けて、これを大脳に記録することが私の主張する漢字教育です。

こういう漢字学習をした子供は、“熱い”という文字を見れば、途端に、あの「あつい！」と叫んだ時の感触が頭の中に甦り、その体験をまざまざと思い起こすでしょう。それが漢字を読むことの意義です。

単に“あつい”と読めても、また正しくその字が書けても、こういう体験が伴わなかったら、「その漢字教育は成功しなかった」と私は言いたいのです。